

## 第4回若者まちづくりミーティング 概要

### 1 日時

平成28年9月3日（土）午後2時から午後4時30分まで

### 2 場所

蒲郡公民館 多目的ホール

### 3 出席者

#### (1) 若者まちづくりミーティング参加者（総人数15名の内10名出席）

（出席者内訳）

- ・高校生 3名
- ・大学生及び大学院生 5名
- ・社会人 2名

#### (2) ファシリテーター

名古屋大学大学院工学研究科 恒川 和久 准教授

### 4 内容

ワークショップ 社会の変化に対応した新たなまちの姿を考える

#### (1) 将来の学校の姿について考える

参加者が2グループに分かれ、「人口が減り、人口の構成が変わっていく中での小中学校のあり方」というテーマで各自が事前に検討した内容を発表し合いました。出された意見を整理してグループのリーダーが発表しました。

参加者から出された意見及び提出された「事前検討シート」の内容は以下のとおりです。

#### 【Aグループ グループ内で出された意見】

- ・学校は災害時の避難場所として、老朽化の改善を行うべき。
- ・人口は減っていくと思うので学校を合併させて設備を充実させ大きな行事を開催出来るように。
- ・学校に色々な人の目があることで、閉じる安全から開く安全へ。
- ・小中の授業で地域の施設について勉強してみる。
- ・市と共同の施設とする。
- ・子供のための施設から地域の拠点へ。
- ・公共施設に公園のようなものをつくる。
- ・地域に開かれた学校にする。
- ・小学校を生活の中心とする。(放課後は児童館・休日は図書館・集会所などを利用)
- ・学校は地域の最小単位のコミュニティ拠点
- ・寿楽荘みたいな空間が欲しい。
- ・小、中、公民館を一緒にするといい。
- ・小、中、保(幼)を合同にする。
- ・使われない時間帯に新しい利用の仕方を考える。(夜とか朝とか)
- ・小中一貫校にすることで中の設備を充実させる。
- ・小学校、中学校の交流を増やす。

#### 【Aグループ 発表内容】

- ・小学校は地域の拠点であり、施設を有効活用していく観点が重要である。
- ・人口減少に伴い、保育園、中学校、公民館などを一緒にして効率化していく。
- ・多世代が集まることのできる場として、交流施設を作ってはどうか。
- ・小学校は安全確保のため門扉など閉じているが、逆に地域の方々が活発に利用することにより、監視の届き安全性を確保することができるという側面もあるのではないか。
- ・授業の中で地域の勉強をすると地域への関心が高まる。

**【Bグループ グループ内で出された意見】**

- ・竹島小は一番新しいため利用価値がある。
- ・例えば、竹島小を蒲南小に移転統合する。
- ・統合した学校は、駅近くなどアクセスしやすい場所に配置すべき。
- ・学校の数を減らす。
- ・廃止した学校の建物を老人ホームに変える。
- ・学校を町の人たちが集まれる場とする。
- ・地域住民と交流できる施設ができるとよい。
- ・学校に多機能を持たせ複合施設にする。
- ・児童館、公民館と学校を一緒にする。
- ・図書館などを学校と複合し市民が立ち寄れるようにする。
- ・防災拠点としての機能を確保する。
- ・地域開放して市民の活動を受け入れる
- ・まち全体で子育てする。部活動などの課外活動を市民にゆだねる。
- ・少人数クラスを主とした学校作りとする。

**【Bグループ 発表内容】**

- ・学校をどう統廃合するか、学校そのものがどうあるべきかという2つの話題があった。
- ・統廃合、竹島小と蒲郡南小の統合を行うときは、統合校は駅の近くにあると良い。
- ・学校で子育てができる、児童館や公民館、図書館があるなど、地域の中での学校を作っていく。部活動、課外活動は学校で完結させずに地域で行う。児童館、公民館、図書館などを学校に多機能化して配置してはどうか。
- ・防災拠点としての機能が重要である。
- ・人口減少に伴い学校のクラス編成は少人数クラスを導入していくこととなる。

## 【事前検討シートの内容】

### 〈参加者A〉

- ・ 学校の数を減らす。(遠い生徒はバスを走らせる・電車通学をする)  
△家から徒歩圏内に学校がないことのデメリット (均等な学習機会が与えられているといえる?)  
△安全面の心配
- ・ 学校を他の施設に変える。(老人ホーム・保育園)  
△予算の関係

### 〈参加者B〉

- ・ 人口減少に合わせ、小中一貫教育をする。(西浦や大塚のように小中がほぼ持ち上がりの地区なら不可能ではないはず)
- ・ 学校施設を地域の人にも使ってもらえるようにする。(子供達のための施設から地域のための施設へ、例えば公民館との一体化・空き教室の貸出・寿楽荘のような空間)

### 〈参加者C〉

- ・ 小、中、公民館を一緒にすることで交流ができる。
- ・ 西浦は生徒が少なく隣の形原は蒲郡の中では一番生徒が多いので、境を変え形原の人を西浦に通わせるのはどうか。
- ・ 蒲郡は自然が豊かだから今まである鉄筋コンクリートの学校ではなくちよっとおしゃれな木造の学校にして自然とふれ合えるようにすると思う。
- ・ 人数が少ないなら少ないなりに先生を充実させるべき、生徒が少ないからといって先生を減らすべきではない。(先生が目が行き届くことをメリットにする)
- ・ 人数が少ないからこそできる教育法を考えていくべき。
- ・ すごくわかりやすい授業をしてくれる先生を招き入れる。
- ・ 英語、プログラミングが近年重要視されているので、それに特化した先生を招き入れる。
- ・ このようなことをアピールして話題になれば外部から入学してくれるようになるのではないか。

### 〈参加者D〉

- ・ 学校は減らすしかない (長期の視点でアナウンス、コンパクトなまちづ

くりを目指す)

- ・小中の枠を超えた再編
- ・避難場所としての活用の有無は考慮したい

<参加者E>

- ・現在日本の過疎地域にみられるように人口の減少に伴い、小中学校は統廃合は複式学級の形をとらなくてはならなくなる可能性がある。反面子ども一人あたりに関わることのできる大人が多くなるため、まち全体で子どもを育てていく環境を作りだしていくことが重要だと考える。
- ・義務教育の思い出深い経験や子どもが住み良いまちにしていけることは、これから育った子ども達が地元で働きたいと思ったり、Uターンをして子育てをしたいと思うために必要なことだと思われる。
- ・これからの小中学校のあり方としては、まちと教育の距離が近くにあるものでなければならないと考える。例えば、児童館や公民館などの併設、老人ホームのようなものと一緒にしたり、カルチャーセンター、図書館機能を充実させるなど。
- ・多くの市民が自分の母校には思い出や誇りを持っているため、簡単に統廃合せず残していける道が望ましい。部活→市民の先生

<参加者F>

- ・統合できるところは統合 EX. 竹島小→浦南小へ
- ・竹島小は一番新しいため、利用価値があると思う、図書館として利用など。

<参加者H>

- ・小中学校計 20 校を今後もすべて維持していくことは財政的に苦しいと感じている。
- ・提案① 統合
  - ◎ 学校数が削減でき経済的
  - △ 地域コミュニティの崩壊危機？
  - △ 学区が広くなり通学困難者が出る？
  - △ その学校の伝統や良さはどうする？
  - ⇒ 地域の人たちの理解が得られるか
- ・提案② 学校に多機能を持たせ、複合施設にする（児童館、市民センター、図書館、保育園、老人ホーム等）
  - ◎ 開かれた学校となり地域で子どもを育てられる

- ◎ 空き教室が有効活用できる可能性
- △ 防犯面がやや心配
- △ 施設管理、だれがどこまでやるのか？
- △ 大規模改修が必要？
- △ 他施設と使用希望場所のバッティング多々ありそう（やや使いづら  
い複合施設になってしまう可能性あり）

〈参加者 I 〉

- ・学校を合併してでも人数を保ってほしい
- ・好きな部活に入れたり、設備を充実させることができる。

(2) 社会の変化について考える

ファシリテーターから、蒲郡市の人口減少や少子高齢化の進展について、人口推計に基づいた説明がありました。また、夫婦共働き世帯の増加、ニーズの変化、民間施設の多様化、地域コミュニティの必要性の高まりなどの全国的な社会の変化について、事例を交えた説明がありました。

(3) 将来のまちの姿を考える

ア ワークショップ趣旨説明及び地区の設定

ファシリテーターから、「地区利用型施設」の再編など、まちづくりを通じて特定の地区の課題を解決し、活力を高める方策を考えるワークショップの趣旨について説明がありました。

ワークショップの対象地区は、15名の参加者の内最も多い5名が住んでいる「西浦地区」とすることとしました。

イ 西浦地区の現状説明

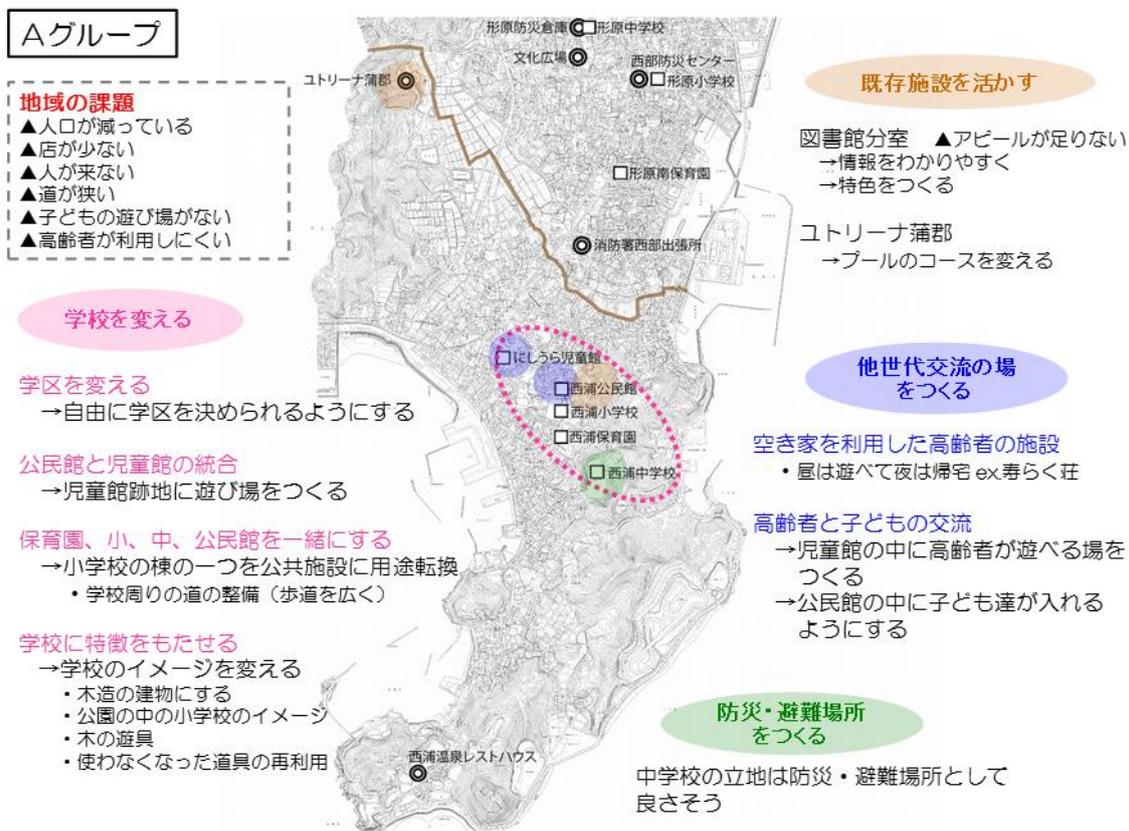
西浦地区の現状について事務局が説明をしました。内容は地区の人口推計、見どころ、産業、交通、地区内の公共施設の様子などでした。

ウ ワークショップ（対象地区：西浦地区）

グループで、西浦地区の課題についての意見を出し合い整理しました。その後、課題に対して、どのようにまちづくりをすることで解決していくかを話し合い、地図上に整理した上で、グループのリーダーが発表しました。

参加者から出された意見は以下のとおりです。

## 【Aグループ ワークシート】

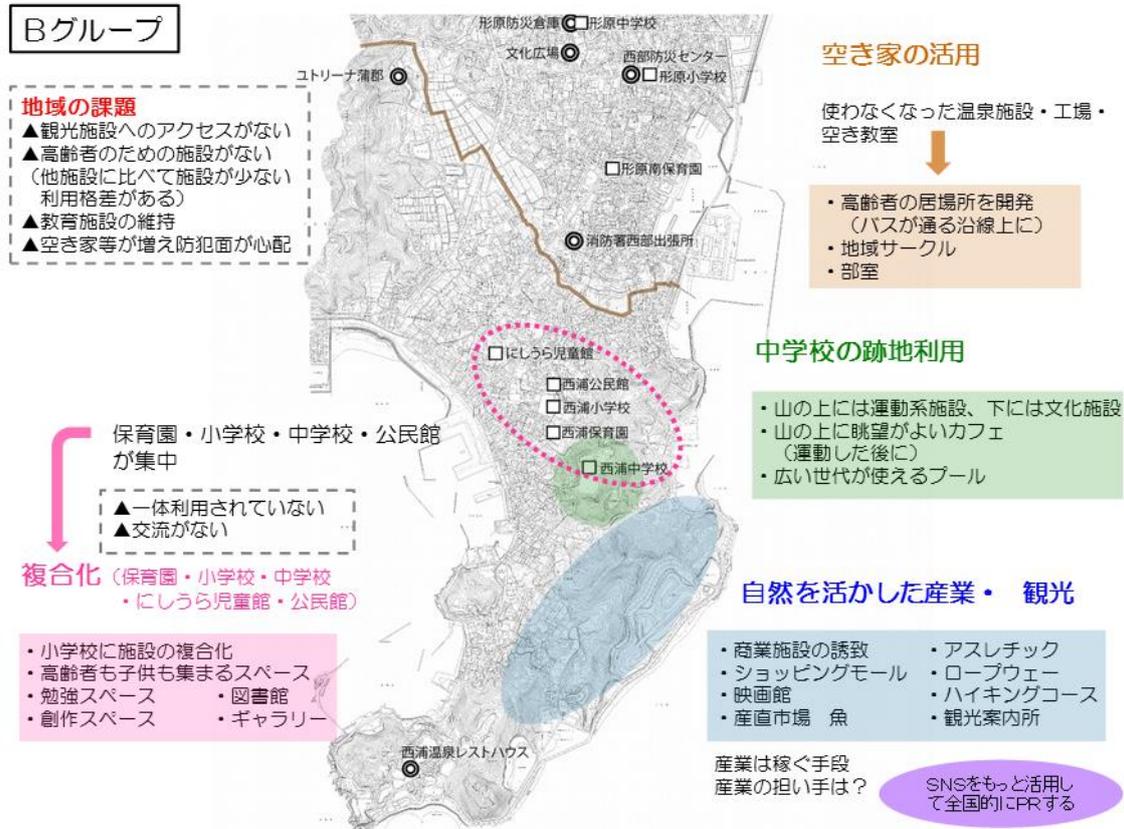


## 【Aグループ 発表内容】

- ・学校についての話題が多かった。
- ・保育園、公民館を学校に複合化し、多世代の交流の場を作る。高齢者が子どもを孫のように育ててくれる場とする。
- ・イメージを変えていく必要がある。地区は自然豊かであるのでそれを活用する。
- ・公園の中にある学校とする。他の学校にはないようなものを整備したい。遊具は回りの樹木を伐採したり、網など漁具の活用をしたりしながら作る。
- ・形原の人も、西浦にも行けるようにする。
- ・ユトリーナを流れるプールにするなど、魅力を高めて行く。
- ・西浦地区以外でも公共施設のアピールが足りない。図書室分室はあることすら知られていない。あるものを有効活用出来ていないことが今後の課題である。

## 【Bグループ ワークシート】

### Bグループ



## 【Bグループ 発表内容】

- ・公共施設、空き家、交通、産業、観光が議題としてあげられた。
- ・暮らす人にとって必要なものは何かを考え、それらを複合化・多機能化していく必要がある。
- ・児童館、公民館等を学校に集約し、勉強スペース、創作スペース・ギャラリーなどを空き教室を活用して整備していく。
- ・中学校を小学校に移転させてはどうか。学校跡地は運動公園に。カフェなどがあるといい。
- ・地元の人たちが買い物出来る場が充実すると良い。ショッピングモールや産直市場など、形原に行かなくてもいいようにしたい。
- ・人が集まってくる場ができれば、高台を利用してハイキングコースやアスレチックコースなどが整備可能である。
- ・バスの沿道の空き家を人が集まるスペースに改造した方がいい。
- ・陶芸部の部室などを学校周辺に点在させてはどうか。

## 5 次回に向けて

ファシリテーターから、次回までに、「公共施設についてこれだけは実現してほしいと思うこと」というテーマで事前に検討していただくことのお願いと、次回、記入内容を全員から発表いただく旨の説明がありました。